

## 入選

### 見えない思いやり

山口県 鼓南中学校 3年 清水 穂香

「思いやり」。それは目に見えることだけではないなと思いました。誰かのさりげない思いやりが私の心を温かくしてくれるからです。

「小さな親切」。考えてみたら難しいです。でも、誰にだってできることなのかなとも思います。

私は、小さい頃から空手をしています。その空手の試合で県外や都会へ行くこともたびたびです。その日も私は、母と二人で大会のため遠征に行きました。これは、その大会が終わり、二人で観光をしていたときのお話です。

私たちは、バス停で目的地へどう行けばよいか迷っていました。なにせ、田舎生まれの私と母ですから、バスに乗ることもほとんどないわけです。まったく道もわからず、とほうにくれていました。そこで、私と母は、人にたずねることにしました。

「すみません。○△×への生き方はわかりますか？」

母はとある女性にたずねました。その方は、地元の方のようにみえたからです。

「わかりました。私もちょうどそこへ行こうと思っていたので、いっしょにバスに乗りますか。」

と、女性は見ず知らずの私たちに、やさしくほほえんでくれました。わざわざバスに乗ってもらうのは悪いと思いましたが、その女性も同じ場所を目指しているのならよいと思い、その方に道案内をお願いすることにしました。

どうやって行けばよいのかわからなかった目的地へも、女性にいっしょにバスに乗ってもらって簡単に到着することができました。私たちは、同じバス停でおりにくれた女性に「ありがとうございました。」と心をこめてお礼を言いました。女性は、

「大丈夫ですよ。私も偶然行くつもりでしたので、気にしないでください。」

とやさしくほほえみました。女性に申し訳ないなと思っていた気持ちも、この言葉で晴れたのかもしれない。そこで私たちは女性を別れました。

しかし、私は何歩か前へ歩いて後ろをふと振り返ったとき、さっきいっしょにバスをおりにくれた女性がもう一度バスに乗り込んでいるのを見ました。(ああ、そうか。女性がここへ来ようとしていたのはウソだったんだな。) そう私は思いました。女性は私たちの目的地へ最初から行くつもりはなかったということにも私は気づきました。もしかしたら、私たちに気をつかわせないため……。いや、絶対にそうだろうと思います。そうでなければ、もう一度バスに乗ることなんてないはずだからです。

私はこのことを知ったとたん、とても心が温かくなるのを感じました。親切というのは、いつだって相手のことを思いやっている行動なんだな、と感じました。もしかしたら、私だってこの女性の親切に気づかなかったかもしれません。そう思えば思うほど、感謝の気持ちも増えました。あの女性のおかげで楽しい一日を過ごすことができたからです。

「見えない親切」。私もこんなことができる大人になりたいと思いました。